

天塩町地域おこし協力隊 2018年4月～6月活動報告

地域プロデューサー 久保 綾香

1. 着任の経緯

群馬県出身。大学で国際関係学を学び、開発途上国の支援（特にアフリカ地域）に興味を持つ。大学院で国際開発学を学び、大学院修了後は民間の開発コンサルティング会社に入社。日本のODA（政府開発援助）事業に携わり、アフリカの国々でのプロジェクト支援業務を経験。これまでの経験を通じて身近な人々の生活を豊かにすることに貢献したいと思い、同職を志望、2018年4月に着任した。



2. 町の地域活性化において貢献したいこと

協力隊の活動を通じた町の地域活性化において、特に貢献したい事柄は以下の通り。

- インバウンド（訪日外国人旅行）受け入れ体制の強化（外国語観光資料の充実化、SNSにおける外国語での情報発信、町内のツアーへの同行・通訳など）
- 海外の国や異文化に対する町民の興味・関心の促進、国際交流機会の増加（異文化理解・英会話セミナーの実施、インターネットテレビ電話を通じた国際交流、留学生・研修生の受け入れなど）
- 天塩町の生産者が国際的に販路を拡大していくための支援（町内の生産現場ツアー等への同行・通訳、国外での製品販売の支援など）
- エコツーリズム分野の観光施策の検討（狩猟や自然資源を活用した観光コンテンツの開発）
- ストリートダンス教室を通じた町民のリフレッシュ・コミュニケーション機会の提供

3. 4月～6月の活動実績

4月～6月は大きく分けて以下の5つの活動を行った。

- ① 外国人観光客・研修生などに対する情報発信と受け入れに向けた支援
- ② 天塩かわまちづくり検討会の活動
- ③ 天塩町の食材活用・販路拡大に関する活動
- ④ イベント・セミナー等を通じた情報収集
- ⑤ その他

具体的な内容については以下の通り。

① 外国人観光客・研修生などに対する情報発信と受け入れに向けた支援

- マードック大学研修生の受け入れに向けた準備（関連資料の英・和訳等）
- 英語での天塩町観光情報の発信（観光資料の英訳、天塩町地域おこし協力隊の英語版 Facebook ページの立ち上げ、記事の投稿など）

- ほか、天塩町の外国人滞在者への通訳対応等

Facebook で天塩町地域おこし協力隊の英語版ページを立ち上げた際は、マードック大学の研修生に周知し、町の様子や情報などを事前に確認してもらうと共に、研修に向けた質問等がある際は同ページを通じて質問を受け、天塩町に関する詳しい情報を提供した。

天塩町地域おこし協力隊の英語版 Facebook ページ

“Teshio Town Hokkaido - Local Vitalization Cooperator”

<<https://www.facebook.com/Explorer.of.Heaven.Salt/>>

② 天塩かわまちづくり検討会の活動

- イタドリジャム製造の参加 (4/3、4/13)
- 野鳥調査への参加 (4/23、4/25、4/29、5/19 の計 4 回参加)
- かわまちづくり関連の総会、検討会等への参加 (6/1、6/7、6/22)

天塩かわまちづくり検討会の各種活動に参加し、まちづくり活動の事例を学んだ。また、天塩の自然環境や野生動物の保護・管理に関心を抱いていたため、NPO 天塩川を清流にする会に入会し、野鳥調査に数回参加した。引き続きこうした活動に参加し、町民によるまちづくりの活動や天塩町の自然資源について学ぶ活動に携わっていきたい。



イタドリジャム製造の様子



野鳥調査で撮影したオジロワシ

③ 天塩町の食材活用・販路拡大に関する活動

- 天塩産山菜（ハマボウフウ）の道内飲食店や道外の食材卸売業者への販売
- ハマボウフウの認知拡大に向けたハマボウフウ調理動画の制作
- 天塩町公認インスタグラマー（ナヲさん）の天塩町訪問の際の現地同行

これまでの天塩町食材の活用に関するプロジェクトを通じて交流のあった札幌のイタリアンレストランや、東京の食材卸売業者に天塩産山菜（ハマボウフウ）の販売を行った（5月中に週に1回程のペースで全5回）。ハマボウフウの採集については町民の方にご協力いただいた。札幌のイタリアンレストランで提供された際は、ハマボウフウは日本人客だけでなく外国人客からも大変好評であったとのことである。山菜は天然物のため、産出量はその年の気候状況等に左右されやすく、安定供給が難しいことが課題である。また、あまり市場に出回っていないものである場合、販売価格の設定基準が分かりにくい。採集を行う際は、

ハマボウフウの生息数を減らさないような環境への配慮も必要である。今後継続的に販売を行っていくための方法を多方面から検討する必要がある。

ハマボウフウの認知拡大のために、ハマボウフウの調理動画を制作した（動画の撮影・編集等は、映像制作等を行っている道外の会社に依頼）。ハマボウフウは、道内であってもその存在があまり認知されていない。まずはハマボウフウの調理方法などを紹介しながら、ハマボウフウがどのような食材なのか親しみを持ってもらえるようにしたい。

5月下旬に天塩町公認インスタグラマーのナヲさんが来町し、食材の生産現場や地元の主婦の方々を訪ね、食材の生産方法やその思い、地元食材の調理法などについて学ばれた。その際久保も同行し、生産者や地元の主婦の方々、そしてナヲさんを含め多くの方々と交流し、天塩町の食材の可能性や今後の展開について共に考えることができた。



天塩のハマボウフウを使用したパスタ※
(札幌のイタリアンレストランで提供された)



天塩町公認インスタグラマー ナヲさんの
天塩町訪問（写真は宇野牧場）

※アオヤギ貝の出汁、トマト、行者ニンニクと合わせてソースにし、バベットという平たいパスタで使用。

ハマボウフウ調理動画 URL(YouTube)

- 「幻の食材！ハマボウフウを食してみた！～調理①酢味噌和え～」
<https://youtu.be/9NjbHP6w_ak>
- 「男は黙って目分量！？ハマボウフウを食してみた！～調理②天ぷら～」
<<https://youtu.be/KsTP-nOYxxQ>>
- 「僕の創作料理！ハマボウフウを食してみた！～調理③生春巻き～」
<<https://youtu.be/eZI7x7PtGvo>>

④ イベント・セミナー等を通じた情報収集

4月～6月中に参加したイベントやセミナー等は以下の通り。

- 天塩町地域おこし協力隊着任式（4/2）
- （株）ポケットマルシェの高橋代表取締役社長によるセミナー（4/18）
- 美深白樺樹液まつり（4/22）
- 川口竪穴住居遺跡の修復作業（4/26）
- 鏡沼海浜公園クリーンアップ作戦（4/29）
- 天塩町フェスタ（5/20）
- 小平町における北海道協力隊研修（6/12・13）

前掲のイベントやセミナー等の実施準備・参加を通じて、天塩町の地域活性化の施策やまちづくりの手法等に関する情報収集を行った。

(株) ポケットマルシェの高橋代表取締役社長によるセミナーでは、1次産業の生産者と消費者をどのように繋ぎ生産物に新たな付加価値をつけるかをテーマとし、発表頂いた。生産者と消費者が直接繋がり、消費者が生産者の姿を見てその思いをよりダイレクトに感じられることが新しい付加価値であり、それが生産者のやりがいにも繋がる。1次産業のビジネスを新しい切り口で見ることができたことは、生産者の方だけでなく自分自身にとっても今後のまちづくりを考えるうえで大変参考になるものであった。

美深の白樺樹液まつりについては、地域の自然資源の活用についての事例を学ぶために参加した。これに関連して、天塩町での白樺樹液の活用の可能性を検討するため、留萌振興局森林室での白樺の生育や樹液採取に関する情報の聞き取りや、天塩町の白樺樹液を使用したバーチシロップの試作も行った。

小平町での北海道協力隊研修では、道内各地の協力隊が一堂に会し、まちづくり活動の経験者や協力隊OBによる地方での暮らし方やまちづくりの考え方についての講義を受けた。また講義終了後は、事前アンケートによって整理されたテーマを基にグループディスカッションを行った。この研修で得た最も大きなものは、道内各地の地域おこし協力隊との繋がりである。研修を終えた後も、研修に参加した協力隊とこまめに連絡を取り合い、互いの活動の進捗や考え方を共有し合うことを通じて、より良い活動のあり方やまちづくりの方法を模索している。



(株) ポケットマルシェ高橋代表による発表



美深白樺樹液まつりでの樹液採取の様子



小平町での協力隊研修の集合写真



小平町での協力隊研修の講義

⑤ その他

- 天塩町内の牧場における乳牛飼育体験（4/20、4/21）
- ストリートダンス（ヒップホップダンス）教室の開催（6/20）
- ふるさと納税ウェブページに掲載する返礼品の写真撮影
- 天塩町の白樺樹液を使用したバーチシロップの試作
- 天塩町における狩猟・鳥獣保護にかかる猟友会関係者の方々からの情報聞き取り

天塩町内の牧場にて乳牛飼育を体験した。牛舎の糞尿の清掃や牧草ベッドの交換、給餌、一部搾乳作業などを体験した。牧場の方々が通常業務で多忙な中、酪農作業未経験者の受け入れ・指導をして頂いたことは大変有難く、こうした生産の現場を実際に目で見て肌で感じることは、生産者の視点に寄り添ったまちづくりを行っていくうえで大切な経験であると感じた。

ストリートダンス（ヒップホップダンス）教室は、自身がダンスの経験があったことから発案し、天塩スポーツ健康づくりラボの河上氏や天塩町教育委員会のご協力の下実施した。6月20日に第一回ダンス教室を実施し、その後はクラスを複数の異なる内容に分けて実施するなど、クラスの充実化を図っている。ダンス教室では、ただダンスを踊るだけでなく、新しい音楽や文化、英語などにも興味を持ってもらえるよう（海外の楽曲を使用する機会が多い）工夫していきたいと考えている。



牧場での乳牛飼育作業の様子



ダンス教室で体を動かす子どもたち



ふるさと納税ウェブページで使用された返礼品の写真の一部



天塩町で採取された白樺樹液を使用したバーチシロップ

以上

国際的視野で町おこし

天塩 久保さん協力隊員に

【天塩】元海外開発コンサルタンの久保綾香さん(28)が、町の地域おこし協力隊として1日付で着任した。アフリカで政府開発援助(ODA)事業に関わり、英語も堪能な久保さんは、国際的な視野を持つ人材育成に力を入れる町にとつて、うってつけ。久保さんは「国際的なネットワークを生かし、天塩に住む人たちの生活を豊かにできればと意欲を燃やしている。久保さんは群馬県出身で、東京の民間開発コンサルタント会社に4年間勤務した。アフリカでは主にODAの農業開発事業に携わった。昨年、夫が天塩町に転勤になったのを機に仕事を探した。発展途上国の豊か人口減に悩む日本の地方都市の振興には共通点が多いと思い、アフリカでもネットワークをつくるのが仕事。経験をいかせる仕事だと思っ「と地域おこし協力隊に応募した。「地域プロデューサー」の肩書で国際

浅田町長から辞令を受け取る久保さん(右)



交流や情報発信業務に携わる。1日、浅田弘隆町長から辞令を受け取った後、早速、語学力を生かし町の地域おこし協力隊の公式フェイスブックの英語版立ち上げの業務に取りかかった。音響設備は「過剰な地が生き残るには、視野を

広げ、国内外の知見を取り入れたい」と探用の理由を述べ、「例えば、アフリカと天塩の子供はスカイプ・インターネット電話で交流してもうとうと、人脈を生かせる仕事はたくさんある」と期待している。(福田謙平)

2018年4月11日(水)北海道新聞朝刊(留萌・宗谷ページ)に掲載



**1歳から70歳代まで
ダンスで笑顔キラリ**

【天塩】初心者向けのヒップホップダンス教室が、町社会福祉会館で開かれ、1歳半から70歳代の町民ら28人が軽快な音楽に乗り楽しく体を動かした。

講師は町地域おこし協力隊員で、高校、大学時代にも練習するほど積極的で、1時間半、全身を激しく動かしていた。(福田謙平)

ダンス経験のある久保綾香さん(ダンスネーム・AYAKAさん)が務め、20日に行われた。

ストレッチで体をほぐし、基礎のステップやリズム取りを学んだ後、テンポの良い音楽に合わせて一連のダンスに挑戦した。最初は緊張気味だった年配の参加者も、次第に慣れてきた様子。子供たちは休憩時間も練習するほど積極的で、

2018年6月30日(土)北海道新聞朝刊(留萌・宗谷ページ)に掲載